

令和4年度事業報告

認定こども園木の実

1. 教育・保育の質の向上

①【接遇の質】の向上

2等級以上の職員で接遇チェックリストを作成し、全職員が年2回(8月・2月)、チェックリストを用いて自己評価を行った。結果は雇用形態別にデータ分析し3等級職員が全職員に報告するとともに改善案検討の中心となり話し合いを行った。2回目(2月)の自己評価では改善できた点が多く見られた結果となった。役割をもち、全職員が自分事として捉え行動に移していったことは、意義のある取り組みだったと感じている。この取り組みはNHKからの取材も受けた。また、福井市の公開保育を実施した際、参加された方々に接遇アンケートに協力をいただき、外部評価を行った。

②【事故防止】への取り組み

救命救急士による事故発生時の初動対応の園内研修を実施した。また、散歩で行く公園や道中の危険箇所マップの作成、運動あそびでの留意点の再確認及び職員間での共有、アイトラッキング(視点カメラ)を使用して、保育の視点をデータ化し、安全な保育を行う上での振り返りや分析を行った。

2. 人材定着・確保への取り組み

終礼で10分程度、保育を語る時間を設けた。子どもの姿を語ることで職員が笑顔になる機会にもなり、保育の楽しさや喜びを共有する時間となった。保育の仕事に就いてよかったと充実感につなげることが出来る機会とした。派遣会社主催の講座に講師として参加したり、仁愛短期大学との合同研究発表や大原学園のイベントに参加し、養成校や学生との接点を作っていた。学生への知名度アップとともに今後の採用につながる取り組みを行った。

3. 地域コミュニティの構築

「ハロウィンやりたい」と、子どもたちは仮装の服やグッズ作りで盛り上がった。当時、コロナが落ち着いていたため、地域を練り歩くことを企画した。職員が手分けをして近隣の店舗に挨拶やお願いに回り、仮装をして子どもたちが訪問させていただいた。子どものみならず、地域の方々も子どもたちの訪問を心待ちにして下さり、交流の楽しさや喜びを相互に感じあえることが出来た。訪問先にお礼の手紙を書く子どもたちの主体的な姿も見られた。コロナ禍で地域とのつながりが希薄化していたが、この活動を機に再構築していきたい。